

小学部児童指導要録

様式1 (学籍に関する記録)

区分 \ 学年	1	2	3	4	5	6
学 級						
整理番号						

学 籍 の 記 録						
児 童	ふりがな			性 別	入学・編入学等	年 月 日 第 1 学年 入学 第 学年編入学
	氏 名					
	生年月日	年 月 日生		転 入 学	年 月 日 第 学年転入学	
	現住所					
保 護 者	ふりがな			転学・退学等	(年 月 日) 年 月 日	
	氏 名					
	現住所			卒 業	年 月 日	
入学前の経歴				進 学 先		
学 校 名 及 び 所 在 地 <small>(分校名・所在地等)</small>						
年 度	年 度		年 度		年 度	
区分 \ 学年	1		2		3	
校長氏名印						
学級担任者 氏 名 印						
年 度	年 度		年 度		年 度	
区分 \ 学年	4		5		6	
校長氏名印						
学級担任者 氏 名 印						

様式2 (指導に関する記録)

児童氏名	学校名	区分	学年	1	2	3	4	5	6
		学級							
		整理番号							

各教科・特別活動・自立活動の記録												
学年	1	2	3	4	5	6						
教科等												
生活		金銭の簡単なやり取りが分かり、店で代金100円を自分で財布から出して支払うことができた。	<p>◎知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の指導要録は</p> <p>育成を目指す資質・能力の三つの柱で目標及び内容が整理されたことを踏まえ、各教科の学習評価においては、観点別学習状況を踏まえた端的な文章記述となります。</p> <p>⇒「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」のそれぞれの要素を盛り込んで記述します。</p> <p>具体的な指導の場面で</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのような知識・技能を ・どのように思考・判断・表現していたか、また ・どのような態度でとりこんでいたか 									
国語		ひらがな20文字を読むことができるようになり、絵本等で知っている文字を自分から指さして読んでいた。										
算数		ものの有無や3までの数に気付き、具体物を数えてやりとりしたり、配ったりする活動を積極的に行った。	<p>◎ 特別支援学級の指導要録の様式について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様式の決定は学校の設置者が行う。 ・小学校及び中学校における指導に関する記録に記載する事項に加えて、自立活動の記録について学年ごとに作成する。視覚障害者、聴覚障害者、肢体不自由者又は病弱者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の指導要録が参考となる。特に必要がある場合には、知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の指導要録の様式を用いて作成する。 (p.11第2章 I 5(2)「指導要録の様式及び取扱い」参照) ・児童生徒一人一人の教育課程に応じた記載枠が必要となる。 (例:「生活」はなくて、「理科」「社会」がある 等) <p>◎ 知的障害者である児童に対する教育を行う特別支援学校の教科「生活」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校低学年の教科である「生活」とは異なる。 (詳細は、p.36第3章 II 3(1)「教育課程の編成」参照) <p>◎ 生活単元学習等の各教科等を合わせた指導について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科等を合わせた指導を行う場合においても、各教科等の目標を達成していくことになることから、合わせている各教科等の記載枠に達成状況を記載する。 (p.40第3章 II 5(1)⑦「各教科等を合わせた指導」参照) <p>◎ 個別の指導計画の写しの添付について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画に指導要録の指導に関する記録と共通する記載事項がある場合には、当該個別の指導計画の写しを指導要録の様式に添付することをもって指導要録への記入に替えることも可能である。 									
音楽		タンブリンや鈴を自分で鳴らしたり、曲の中で教師をまねて鳴らしたりすることができた。										
図画工作		紙粘土の扱いに慣れ、丸めたり、型を抜いたりして、集中して粘土遊びに取り組んだ。										
体育		水の中での身体の動かし方がわかり自分から浮き輪を使って体を浮かせたり、水の中で歩いたりすることができた。										
特別活動		交流学習では小学校の友達の来校に張りきって迎えた。友達と協力してボール運びリレーに取り組んだ。										
自立活動		ボウリングゲームでは、順番表を見ながら自分の順番を守り、友達と一緒に遊ぶことができた。	<p>◎ 自立活動の評価は、個別に設定した目標に照らして、それがどれだけ実現できたかを評価することになる。 (p.131第4章 V 3(2)「評価」参照)</p>									

様式2 (指導に関する記録)

児童氏名	学校名	区分	学年	1	2	3	4	5	6
自立活動を主とする教育課程		学級							
		整理番号							

各教科・特別活動・自立活動の記録									
学年	1	2	3	4	5	6			
教科等									
生活	<div style="border: 2px solid red; padding: 5px;"> 〈自立活動〉 〈国語〉 〈算数〉 〈音楽〉 〈図画工作〉 〈音楽〉 〈図画工作〉 〈特別活動〉 </div>								
国語									
算数									
音楽									
図画工作									
体育									
特別活動									
自立活動									

教科等毎の記載枠(点線)の位置変更が可能

〈自立活動〉として実施している、グループ学習及び個別学習の評価について記述する。

教科別指導の教科、各教科等を合わせた指導及び特別活動については、観点別学習状況を踏まえ記述する。

児童氏名

特 別 の 教 科 道 徳

学 習 状 況 及 び 道 徳 性 に 係 る 成 長 の 様 子

第1学年		第4学年	
第2学年		第5学年	
第3学年		第6学年	

行 動 の 記 録

入学時の障害の状態

第1学年		第4学年		
第2学年		第5学年		
第3学年		第6学年		

総 合 所 見 及 び 指 導 上 参 考 と な る 諸 事 項

第1学年		第4学年	
第2学年			
第3学年		第6学年	

要点を箇条書きとするなど、
その記載事項を必要最小限にする。

<小学校や中学校の場合>
転級の事実を記載

例1：○年○月○日入級
例2：○年○月○日

出 欠 の 記 録

区分	授業日数	出席停止・ 忌引等の日数	出席しなければ ならない日数	欠席日数	出席日数	備 考
1						
2						
3						
4						
5						
6						

小学部児童指導要録

様式1 (学籍に関する記録)

区分 \ 学年	1	2	3	4	5	6
学 級						
整理番号						

学 籍 の 記 録						
児 童	ふりがな			性別	入学・編入学等	年 月 日 第 1 学年 入学 第 学年編入学
	氏 名					
	生年月日	年 月 日生		転 入 学	年 月 日 第 学年転入学	
現住所						
保 護 者	ふりがな			転学・退学等	(年 月 日) 年 月 日	
	氏 名					
	現住所			卒 業	年 月 日	
入学前の経歴				進 学 先		
学 校 名 及 び 所 在 地 (分校名・所在地等)						
年 度	年 度		年 度		年 度	
区分 \ 学年	1		2		3	
校長氏名印						
学級担任者 氏 名 印						
年 度	年 度		年 度		年 度	
区分 \ 学年	4		5		6	
校長氏名印						
学級担任者 氏 名 印						

児童氏名

行 動 の 記 録															
項 目	学 年	1						項 目	学 年	1					
		1	2	3	4	5	6			1	2	3	4	5	6
基本的な生活習慣								思いやり・協力							
健康・体力の向上								生命尊重・自然愛護							
自主・自律								勤労・奉仕							
責任感								公正・公平							
創意工夫								公共心・公德心							

自 立 活 動 の 記 録				入学時の障害の状態	
第1学年		第4学年			
第2学年		第5学年			
第3学年		第6学年			

総 合 所 見 及 び 指 導 上 参 考 と な る 諸 事 項			
第1学年		第4学	
第2学年		5学	
第3学年		第6学	

要点を箇条書きとするなど、
その記載事項を必要最小限にする

出 欠 の 記 録						
区分	授業日数	出席停止・ 忌引等の日数	出席しなければ ならない日数	欠席日数	出席日数	備 考
1						
2						
3						
4						
5						
6						